

松江の弥生時代

松本岩雄

1. はじめに

- ・弥生時代の出雲のイメージ
→塗り替えられた弥生青銅器文化（荒神谷遺跡・加茂岩倉遺跡——志谷奥遺跡）
- ・旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、飛鳥・奈良時代・・・・
- ・弥生時代とは——日本列島に灌漑水田稲作が導入されることをもって弥生時代の開始とみる。定型的な前方後円墳（古墳）の出現を古墳時代とし、弥生時代の終焉とする。

弥生時代の年代——紀元前4～5世紀から紀元後3世紀前半頃まで

【弥生時代に現れた主要な事象】

- ・灌漑稲作、環濠集落、金属器（青銅器と鉄器）など
灌漑施設の整備——集落構成員による集中的な労働力——社会的階層の顕在化
→政治的社會の形成へ

2. 水田遺構

- ・北講武氏元（鹿島町）、夫敷（東出雲町）、上小紋（竹矢町）遺跡
- ・農耕具（鍬・鋤など）、農耕具を加工する石器（柱状片刃石斧・扁平片刃石斧など）
→西川津遺跡、布田遺跡など
- ・渡来系の人々——古浦砂丘遺跡

3. 弥生時代の集落

- ・竪穴建物と掘立柱建物
前期後葉（西川津・佐太前・寺床遺跡）～中期中葉（布田遺跡）までは低地や谷部
後期（平所・折原中堤——上野・野津原Ⅱ遺跡）は丘陵
- ・環濠集落——全国で500例以上、山陰で24例以上——西川津・佐太前・田和山遺跡

4. 青銅器のまつり

- ・伝竹矢銅剣（平濱八幡宮蔵）——細形銅剣
- ・推定出雲銅鐸（木幡家伝世）——「福田」型、癩邪文
- ・伝熊野出土銅鐸（熊野大社蔵）
- ・志谷奥遺跡出土青銅器——銅鐸2点、銅剣6本

5. 弥生時代の玉作り

- ・前期——西川津遺跡
- ・中期——布田遺跡
- ・後期——平所遺跡

6. 弥生時代の鉄器

- ・中期——中国製鑄造鉄斧（西川津遺跡）
- ・後期——鍛冶遺構（上野Ⅱ遺跡<穴道町>）

7. 弥生時代の墳墓

- ・前期～中期中葉——配石墓、木棺墓、土墳墓、土器棺墓など
堀部第1遺跡（鹿島町）
- ・中期中葉～後葉——方形貼石墓
友田（浜乃木町）・三成（東来待）遺跡
- ・後期——四隅突出型墓
布志名大谷Ⅲ（玉湯町）、友田（浜乃木）、東城ノ前（西津田）、
来美墳墓（矢田町）、間内越（矢田町）、的場（八幡町）、沢下（坂本町）、
南講武小廻（鹿島町）遺跡

8. 弥生時代松江市域の特色

<時代の画期>

- ・第1の変化——前期末段階
① 金属器文化 ②玉作りの開始 ③環濠集落C類
- ・第2の変化——中期後葉から後期初頭段階
① 大量の青銅器埋納 ②田和山の終焉 ③四隅突出型墓の築造
④鍛冶による鉄器生産 ⑤地域色の強い土器→新たな独自の文化が萌芽する段階
- ・第3の変化——弥生後期末から古墳時代初頭
① 四隅突出型墓の終焉 ②環濠を有する大集落の消滅→特色ある地域文化が急速に希薄になる。

<交流の結節点>

- ・孔列文土器（朝鮮半島前期無文土器＝縄文晩期と共伴）——佐太講武・西川津遺跡
- ・松菊里式土器（朝鮮半島中期無文土器＝弥生前期と共伴）——古浦・堀部遺跡
- ・水石里式土器（朝鮮半島無文土器後期前半＝前期と共伴）——西川津・原山・矢野遺跡
- ・勒島式土器（朝鮮半島無文土器後期後半＝中期後葉～後期前葉と共伴）——山持遺跡
- ・楽浪土器（鹿島沖・山持）
- ・半島系の瓦質土器（南講武草田・タテチョウ）——弥生末～古墳時代初頭
- ・石硯（田和山）、貸泉（中野清水）、三稜鏃（古志本郷）、弩形木製品（中野美保）
- *半島から九州を経ないルートも想定できる——複数ルートの存在
- *南北ルートの存在——分銅形土製品、特殊壺、特殊器台
- *東西交流、南北交流の結節点として、広域にわたる様々な文化がもたらされるとともに、その中から地域独自の新たな文化を創造していたところに大きな特色がある。